

以下は 2021 年度に東アジア圏へ長期留学した学生による留学関連情報と最終報告書です。留学者は韓国カトリック大学への 1 名のみです。

留学先	韓国・カトリック大学校
留学期間	半年
留学開始時の学年	2 年生
派遣先での受講した授業と時期 語学堂オプション授業の金額（カトリック大学校は語学堂の春と秋タームの授業が必須。夏と冬タームはオプションにつき授業料は有料）	<p>■語学堂の授業</p> <p>→■秋ターム（9月上旬～11月中旬）： ■冬ターム（12月上旬～2月中旬）：910,000 ウォン</p> <p>■学部の授業</p> <p>→■秋学期（9月上旬～12月上旬）</p> <p>→■現地学生メインの授業 □留学生メインの授業</p> <p>*渡韓したのは7月下旬（韓国政府の水際対策に基づき、韓国入国後14日間の自主隔離が設定されていた）</p>
宿舎	<p>■学生寮</p> <p>→寮費に食事が含まれるか： 含まれない。先輩方の留学最終報告書にもあるように、共有キッチンがあったが、1日1組の予約制だったため利用しなかった。主に、外食や出前、また電子レンジで調理が可能なものを食べていた。野菜や果物は買い置きしていた。</p> <p>→ルームメイトの国籍と人数： 2人部屋で日本人1人。</p> <p>→水道光熱費も含んだ寮費の月額： 在学中の寮費である約22万円（水道光熱費込み）を入寮の際、まとめて口座に振り込んだ。</p> <p>→夏休み・冬休みも寮に滞在できるか： 滞在できる。私の場合、冬休み中の寮費も込みで事前に支払った。</p>
スマホ・携帯電話はどうしていたか	<p>■日本からSIMフリー端末を用意して現地でSIMカードを購入</p> <p>→金額など詳細：隔離中のインターネット環境が不安だったため、仁川空港で20日分のSIMカードを購入した。 約5000円</p> <p>■現地で新たに契約・購入</p> <p>→金額など詳細：隔離解除後、別の会社で正式に契約をした。 月約3600円</p>

<p>現地での資金調達はどうしていたか</p>	<p>VISA のデビットカードに毎月決まった額を送金してもらい、そこから必要な分を現地の口座に移して使っていた。(現地の口座に移す理由→携帯代金の支払いは基本的に国内のカードのみ取り扱っている会社が多いため) 残高はオンラインバンクで逐一確認していた。また支出のたび、アプリに書き留めていた。</p>
<p>現地で困ったので日本で準備した方が良かったこと</p>	<p>とくにないです、基本的に現地で揃えます。強いて言うならば、私の場合、アレルギー体質なので薬が必須でした。肌が弱い方は事前にかかりつけ医へ相談しておくことをお勧めします。</p>
<p>留学を考えている後輩へ伝えたいこと</p>	<p>先輩方の留学最終報告書を見ていると、「事前に勉強しておくべきだ」という文面を頻繁に見かけますよね。私も事前に勉強をしておくことは大切だと思います。しかし、一概にそうともいえないのではないかと今回の留学を通して強く感じました。例えば、長期的に基礎の段階から取り組んできたわけでもない方が、直前に実力を取り繕ってしまうと、基礎が固まっていない状況で応用の段階に入ってしまうため、肝心の知識が欠落し、授業に支障をきたす恐れがあります。直前に叩き込んだ内容であればあるほど、学んだ知識の記憶は浅いと考えからこそこの私感です。まだ留学を検討している段階の方には、時間もあると思いますので、自分が思っているレベルの一段階下の基礎から実力を着実に固めてほしいです。そして既に留学へ向け準備を進めている方には、余計なストレスを感じてもらいたくないです。今の時期は隔離もあるので、例年より一層ストレスを感じやすい環境なのではないかと思います。後輩の方には、このようなご時世であっても、無理なく留学生活を楽しんでほしい気持ちです。</p>

留学最終報告書:半年間の留学を終えて

私が今回、交換留学生という立場で留学を果たしたカトリック大学校は、韓国の富川市に位置している。学内の各エリアに設置されている機械に学生証をかざして出入りするため、警備面もしっかりとしている印象だった。また、街中どこへ視線を向けても緑があり、学内で野生の狸やリスを見かけたこともあるほどに自然が豊かであった。勉強に集中することができる最適な環境だったと鮮明に記憶している。このようなご時世であっても、世界各国からきた数多くの留学生が在籍していた。コロナがなければ、きっともっと多くの学生と出会っていたのではないかと思う。どこかもったいない気持ちにもなるが、逆に、コロナ禍だったからこそ良かった点も数え切れないほどあったのだと感じている点も多くある。その中の一つを挙げるとするならば、少人数制で進行される語学堂の授業だ。少人数制のため、気になるところは逐一質問することができた。個人的にその点がとても有難く、また良かったと感じたことの一つである。在学中は簡単に自炊ができないと耳にしていたため、食費が嵩むことを留学当初より懸念していた私であったが、案の定留学生活において、食費の出費が何よりも嵩む結果となった。韓国は物価が安いというのは最早過去の話で、今は日本とそこまで変わらないのではないかと、実際に韓国で半年間暮らしてみた私は思う。とはいえ、コロナ禍であれ外食に誘われる機会は多かったと思う。今韓国では、住民登録証やワクチンの接種記録、電話番号などの個人情報紐づいている「QR コード」がなければカフェや食堂で食事をするのはおろか、百貨店や書店にも入ることが許されない。QR コードがない場合、特例として電話番号があれば入店できるお店もあるが、基本的にワクチンの接種証明書を持参しなければならない。そして、ワクチンを打っていないのであれば、陰性証明書がないと食事をするのでない。私は11月末に1回目を接種し、12月には2回目も接種したが、もっと早くに接種した方が結果的に楽だったのではないかと思う。それほどまでに義務化されているワクチンの強制力や接種文化に、確かにある日本との違いを感じた。実際に未接種状態であった8月から11月上旬まで、寮の事務で働く方が、部屋まで何度も繰り返し接種の予定を聞きにくるほどだった。私がカトリック大学校で実際に過ごした平日の過ごした方は基本的に午前9時から13時まで語学堂で語学を学び、午後14時頃から18時頃まで曜日ごとに違う大学の講義を受けていた。放課後は主に、その日語学堂で習ったことの復習をしていたが、大学で受けている講義のほとんどがグループ作業であったため、講義内では賄うことのできなかつた作業を放課後にグループで集まり熟すことも多かった。語学堂も大学の講義も、その時期の感染者の推移を見てオンラインとオフラインを頻繁に切り替えていた。

今回の留学では、立ち止まりそうになっても、考えるより行動してきた。諦めることなく、自分で物事を順序立てて確実に熟していく力が身についたと、今だからこそ自身をもって胸を張って言うことができる。例えば、難しい言葉を発音するときに、一回で伝わらないことを前提に、恥を捨て何度も伝える姿勢を崩さないことを心がけていた。そのたびに私の拙い韓国語へ時間を浪費して耳を傾け、一生懸命聞き取ろうとしてくれていた友人には感謝してもしきれない。韓国語を使う職種は限られてくるが、仕事と切り離す形になろうとも、今回の留学を通して、韓国という国で使われる韓国語はこれからも私が学んでいきたい言語であり、知りたい隣国の文化なのだ改めて感じることができた。